湖沼をめぐる問題

八木　健三

'84世界湖沼環境会議がいま(一九八四年、八月末)琵琶湖畔の大津市で開催され、世界二七ヵ国から七三名の代表者を集め、湖沼の現状及びその保護について、熱心な討議が行われている。この会議が、わが政府ではなく、一自治体である滋賀県の主催によって開かれているところに、湖沼問題に対する政府のとり組み方のおくれが象徴的に示されている。湖沼水質法案は難産のすえようやく七月二十日に日の目を見たのだが。

しばしば来日して精力的に活躍している国連環境計画事務局長トルバ博士の提唱により、今後湖沼環境情報を収集し、国際会議を開くための「国際滋賀委員会」がつくられようとしていることは、琵琶湖を守ろうとする滋賀県の人びとの努力が報いられたものとしてよろこばしい。このように湖沼問題は、いまや国際的な関心を集めているのだ。

火山の国でもある北海道には、多数のカルデラ湖を始めとして、海岸の潟湖、湿原の湖沼、河川の蛇行による河跡湖等々、変化に富んだ多数の湖沼が存在する。幸いにして、これらの湖沼には、琵琶湖や霞が浦などのような火急の危機はいまのところ訪れてはいないものの、水質汚染、富栄養化、乾燥化、さらに開発にともなう湖沼環境破壊のおそれは、確実に進行しつつあるのを見逃すことはできない。

このような湖沼環境問題の今日的意義をふまえて、私たちは北海道の湖沼を中心とする特集を編集した。すなわち、湖沼の地学的、陸水学的基礎研究から、湖沼にすむ動植物の生物学をとり上げ、その漁業上での問題点、さらに湖沼における水質汚染の問題にも焦点をあててみた。

これらの基礎的なデータとそれに基づく対策によって、湖沼が人間をふくめた生物の健全な生活の場として存続し、その美しさを永く伝えてゆくことを心から希望したい。

（会　長）